



図3 ヒメジャコの成長量

念ながら人為的な要因（密漁）も大きく影響しているためと思われる。

成長は殻長8 cmとなるのに約5年間を要している。これらの結果からヒメジャコの親貝が残っており、穿孔基質のある場所では、漁獲強度を低くすれば、まだ資源の回復する見込みがある。再生産に関する幼生の供給量と場所、そして成長速度から殻長8 cm以上の間引き採捕よりも漁場を5~6ブロックにわける輪作制の方がよいと思われる。

(5) ヒメジャコの資源培養型漁業の検討

沖縄県水産試験場八重山支場がおこなった試験研究結果をもとにして検討を加えてみた。表2にヒメジャコの種苗生産及び試験放流数を示した。

表2. ヒメジャコの種苗生産数及び試験放流数(×10³個)

年度	種苗生産数(1mmサイズ)	試験放流数(放流サイズmm)
昭和54年	15	10(1.0~1.5) 地まき法 ¹⁾
55年	138	0.14(3.1~6.8) 埋め込み法 ³⁾
56年	85	11(2.5~5.0)折衷法 ²⁾ 0.05(20.1~29.9)埋め込み法
57年	129	3(4.6~22) 埋め込み法
58年	206	1(3.0~9.0)人工基質法 ⁴⁾ , 11(2.0~7.0)折衷法
59年	59	5.2(5.2~14.2)埋め込み法, 6.8(3.2~6.0, x>10)折衷法, 0.5(3.4~7.9)人工基質法

- 1) 地まき法：直接基質の上にかく方法
- 2) 折衷法：放流地点に穴を先にあけておき、その後その場所へ地まきする方法
- 3) 埋め込み法：貝にあった穴を基質にあげ、その穴へ1つ1つ貝を入れてやる方法
- 4) 人工基質法：セメントブロック法、セメントブロックに貝を埋め込んで貝が安定するまで中間育成し、その後海へ出す方法